

# 平成 27 年度山形大学機器・分析技術研究会参加報告

永田陽子

工学系技術支援室 分析・物質技術系

## はじめに

平成 27 年 9 月 10 日-11 日の二日間にわたり開催された山形大学工学部主催の平成 27 年度山形大学機器・分析技術研究会に参加したので報告する。本研究会は、山形大学米沢キャンパスを会場として行われた。前日より台風の影響があったため、最終的な参加者数は 171 名（うち学内 38 名）であった。参加者は主に国公立大学、国公立高専の技術職員、教務職員である。今回の研究会では、ポスター発表件数は 35 件（登録件数 52 件）、口頭発表は 17 件（登録件数 21 件）であった。

## 研究会のスケジュール

今回の研究会では 9 月 10 日 13:15 の開催予定時間までに辿り着けない参加者が多かったが、予定通り 13:15 より開会式が開催された。開会式及び特別講演会場として二会場用意されていたが直前に一会場に統合された。講演時間のスケジュールに関しては、特に二日目の口頭発表においては発表者が来場できていない講演時間もあったが、公開しているスケジュール通りに聴講に来る参加者もいるとの考えで、当初の予定通りに発表を行った。口頭発表者が来場できていない講演についてはその時間はブランクとした。

## 講演発表の内容

9 月 10 日 13:30 より山形大学大学院理工学研究科城戸淳二教授による記念講演会「有機エレクトロニクスで地域創生」が開催された。城戸教授は有機 EL の世界的権威であり、また有機 EL を産業化し山形の地域産業に貢献している。有機 EL では光の波長を調整し作り出すことができるので、植物の生育に最適な波長を照射して農作物の生産性を上げ、工業化して将来的には地域産業の発展を行うという気宇壮大な話であった。また有機 EL は医療用途としても用いられる。有機 EL では人体に最適な波長を作り出すことができる。特に睡眠に関与する分泌物の一つであるメラトニンは最適波長によってより多く分泌することが知られている。例えば、痴呆症の症状の一つには時間の感覚がなくなり昼夜逆転する生活を送る事がある。老人ホーム照明に有機 EL を用いる事によりメラトニンの分泌を促すことになり、痴呆症の症状緩和につながることもある。有機 EL を用いた照明でメラトニンがより多く分泌できれば、症状が緩和されて夜に眠れるのではないかという大変有意義で興味深い講演であった

特別講演後、ポスター発表及び口頭発表が行われた。発表では地域貢献に関する発表が多く、今後の参考となった。また共同利用機器でプラズマ誘導結合-質量分析装置を使用している事例があった。管理の難しい ICP-質量分析装置をどのように管理運用しているかの有意義な情報を得ることができた。

## 地域代表者会議について

地域代表者会議は2日目12時から山形大学工学部4号館2階中示範C教室にて行われた。

#### 1. 2014年度 開催機関の報告（北海道大学）

北海道大学の山口氏より報告があった。

平成26年9月4-5日に北海道大学札幌キャンパスで開催された。総合技術研究会の12分科会のうち第8分科会として「機器・分析技術分野」が設けられた。「機器・分析技術分野」でのポスター発表32件、口頭発表13件であったことが報告された。今回の北海道大学では、機器・分析技術研究会発足20年を記念した2コマでの大阪大学田中氏による特別講演が行われた。北海道大学では、鳥取大学に引き続いて研究会開催中の危機管理体制の構築というものがあつた。これは事故、災害などがあつた際に、研究会参加者に対して対応を行うことが目的に含まれる。HPにはキャンセルポリシーが明記された。

#### 2. 2015年度 開催機関の報告（山形大学）

山形大学の佐藤氏より現在の状況が報告された。

開催日程は平成27年9月10日(木)13時15分より開催し、11日(金)16時閉会を予定している。ポスター発表52件、口頭発表21件、参加登録人数206名(学内39名)であるが、11日午前の段階では36名が辿り着いていないので、正式な参加登録・発表件数については、次回の会議で報告されることが説明された。

#### 3. 2016年度 開催予定機関の準備状況（名古屋大学）

名古屋大学の高田氏より準備状況が報告された。

1) 開催日時：9月8日（木）：特別講演（13:30-14:30）、発表、情報交換会

9月9日（金）：発表

2) 開催場所：名古屋大学 東山キャンパス 豊田講堂

特別講演はノーベル賞受賞者の天野浩生の予定

3) 参加費：¥2,000円（予定）情報交換会会費 ¥4,000円（予定）

4) 開催目的：「機器・分析」をキーワードにした広い分野からの発表を募集を行う予定である。更に、名古屋大学で独自に取り組む企画として「国際化」と「設備・機器の共用化」をキーワードにしたセッションを設ける。海外の大学からの技術職員が参加する予定である。

5) 今年度の予定：

5) -1 平成27年12月3日(木) 13:30-17:15

第3回「技術職員の国際化」および「設備・機器の共用化」に関するシンポジウム

(Symposium on "Internationalization" and "Facilities and Equipment Sharing" in the Technical Center of Nagoya University) を開催する予定。

5) -2 平成27年度山形大学にてPR、平成28年3月山口大学でPR予定

#### 4. 2017年度 開催予定機関の準備状況（長岡科学技術大学）

長岡科学技術大学の山田修一氏より準備状況が報告された。

開催日時は平成30年8月24日-25日に予定されている。開催場所は24日の開会式、記念講演、ポスター発表は長岡科学技術大学ではなく、長岡市の施設で行う予定である。テーマは「機器・分析技術の向上」および「安全衛生教育とその技術支援」の予定である。

5. 地域代表者会議の選出者名簿の規定について議論された。

6. 不参加者への参加登録料および情報交換会会費の返金について論議され、参加費は支払い済みの場合、返金はせず要旨集を送付する。参加登録済みで参加登録料未納の場合、参加費を払ってくれたら要旨集を送付する。情報交換会費については11日の段階では経費が計算できな

かったので、山形大学佐藤氏の判断に任せることとなった。

また、山形大学では、参加募集要項の中にキャンセルポリシーがなかったが、地域代表者会議でも、キャンセルポリシーの記載のあった北海道大学、また東日本大震災直後に研究会を行った平成 22 年度熊本大学総合技術研究会の例が参考として出された。

## 台風の影響について

機器・分析技術研究会 HP の参加登録によると、当初は山形大学外から 206 名（うち学内 39 名）が機器・分析技術研究会に登録したが、台風の影響があり、実際に来場できない参加者が多数いた。しかし、研究会は当初の予定どおりのスケジュールで 9/10（木）13:15 に開会し、9/10（金）15:20 に全日程を終了した。山形大学機器・分析技術研究会 HP によると最終的な参加者は 171 名（うち学内 38 名）であった。

今回は、多くの人が行く予定としていなかった東京駅、仙台駅、福島駅などで立ち往生したと聞いている。今回のように途中で足止めとなった場合、具体的な情報収集などで実行委員会の方に世話になる可能性はある。また情報収集や欠席の連絡をしようとしたが、電話が繋がりにくくなっていたという状況もあったようだ。次回は名古屋大学で主催の予定であるが、山形大学機器・分析技術研究会同様に秋開催なので、台風などの影響が心配される。今回のように不測の事態がおきた場合に、正確で具体的な情報を収集し、素早く伝える手段の確保は、次回の大きな課題であると感じる。

## 最後に

山形大学技術部の運営及び技術部についての見学の機会を与えて頂き、工学部技術部に感謝します。